

漢法苞徳塾資料	No. 050
区分	巻頭言
タイトル	「気の医学」論の留意すべき問題について
著者	八木素萌
作成日	

「人間科学学会」が出来て、この学会の当初の啓蒙的な活動を報じる雑誌の中で、副会長の湯浅泰男氏の講演内容を掲載している。その中で、東洋医学についての思いも掛けない特長付けが述べられているのを読んで大変驚いた。

「液体を基本とした哲学」に基づいて「心身相関」的で「全体的」な（ホリスティックでサイソマティックな）「医学」が東洋医学である。それは、また経絡に気が流れており、その気を調節するものである、その調節は漢方薬と鍼灸と気功となどで行なっている、と言うのである。

漢文を読めて基本的な古典書籍の数冊を、自ら研究した上での「東洋医学観」であるとは、私にはとても思えないのである。

大学の心理学専門の教授で、人間科学学会の副会長であると言う肩書きは、世間に対して充分過ぎるほどに信用があり、威信があるものであるだけに、こんな特長付けは「雑誌記者の記事にする時のもの」のセイであるとしても、是非とも訂正して欲しいものであり、まことに困った特長付けなのである。

これとホボ同じ内容が、NHK-TV 第1放送の東洋医学を紹介する放送のなかで説明されたのであるから、なお一層、訂正して欲しいものである。誤謬の二重奏が、このような「東洋医学観」を常識化してしまうことが、東洋医学の専門家の把握にまで、歪めて行くことになった場合……大量な臨床家の観念に「歪んだ東洋医学観」が浸透すれば、当面する学術課題についての問題意識まで歪めてしまうような力学が作用することになりかねないから……ユユしい事であるからである。